

速報：モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湖沼）水生植物調査

クッチャロ湖 サイト

—北海道枝幸郡—

クッチャロ湖は、北海道北部の浜頓別町に位置する汽水湖です。狭い水路で大沼と小沼に分かれており、大沼はクッチャロ川河口から海水が流れ込むため、小沼よりも汽水となります。北オホーツク道立自然公園に含まれ、周囲約 30km、面積約 14 平方キロメートル、最大深度 2.5 メートルの海跡湖です。付近一帯は自然公園の特別地域や鳥獣保護区で、春と秋にはコハクチョウやたくさんの渡り鳥が訪れ、渡り鳥の中継地としても有名です。大沼では、汽水域に生育する希少な種のヤハズカワツルモが確認されています。



コウホネ。小沼の最奥で確認できました。



調査地点の様子。水面にはオオヒルムシロの葉等がみられ、水面下にはホザキノフサモ等の沈水性の植物が確認できました。



小沼の最奥部の様子。ミクリ等がみられ、水面下にはフサモ等の沈水性の植物も確認できました。

2019 年度の調査結果概要

クッチャロ湖サイトは、今年度より新たに加えられたモニタリングサイトです。今年度は、湖沼全域に渡ってどのような水生植物が生育しているかを把握するため、沿岸を歩く方法（踏査調査）とゴムボートを利用した方法（ボート調査）の2つの方法を用いて、湖沼全体を調査しました。（2019年8月14～16日に実施）。

調査では、ホザキノフサモ、リュウノヒゲモ、フサモ等の群落が水面下に広がっている様子が確認できました。また、複数の場所で、ホザキノフサモ、リュウノヒゲモ、ヨシ、コアマモ、ヒロハノエビモ等が確認できました。

希少な種に関しては、大沼でヤハズカワツルモの生育を確認できました。また、小沼ではヒンジモ、ツツイトモ、ヌマゼリが初めて確認されました。

【調査者・調査協力者】片桐浩司、薄田実咲、原田茜音（秋田中央高校）、志賀 隆、加藤 将、内藤芳香（新潟大学）、山ノ内崇志（福島大学）、首藤光太郎（北海道大学）青木美鈴（日本国際湿地保全連合）、小西 敢、千田幹太（浜頓別町）



ヒンジモ。絶滅危惧Ⅱ類。ウキクサ類の仲間で葉の形状が「品（ヒン）」の文字に似ていることから名前がつけました。



©Yamanouchi T.

ヌマゼリ。絶滅危惧Ⅱ類。湖沼や河川、水路、湿原等に生育しています。草丈が 100cm を超えることがある多年生の抽水～湿生植物です。



リュウノヒゲモ群落。小沼の東側にて、大きな群落が確認できました。



リュウノヒゲモの花序。花期は、7月から9月。調査の際、たくさんの「花」が確認できました。

速報：モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湖沼）水生植物調査

塘路湖 サイト

—北海道川上郡—

塘路湖は、北海道道東の釧路湿原の東側に位置する淡水湖です。釧路湿原国立公園に含まれ、周囲 18km、面積 62 平方キロメートル、最大深度 7 メートルの海跡湖です。付近一帯は国立公園の特別地域・鳥獣保護区でもあり、オジロワシやアオサギ等の鳥類をはじめ、湖にはワカサギも生息し、冬には氷上でのワカサギ釣りが楽しめます。1970 年代から 2000 年代にかけて複数の水生植物相報告があり、かつては多様な沈水植物が豊富に生育する環境でした。近年は湖の富栄養化により水生植物への影響が懸念されています。



エゾノミズタデの花序。
塘路湖の西側において複数の群落が見られました。



エゾノミズタデ群落。
湖にアクセスできる場所からも見る事ができました。



ネムロコウホネ群落。
塘路湖の東側で見られました。

2019 年度の調査結果概要

塘路湖サイトは、今年度より新たに加えられたモニタリングサイトです。今年度は、湖沼全域に渡ってどのような水生植物が生育しているかを把握するため、湖沼全体を調査しました（2019 年 7 月 29～31 日に実施）。

調査では、エゾノミズタデ、ネムロコウホネ、エゾベニヒツジグサ、ヒシ等の様々な種類の水草群落が水面を覆う様子が確認できました。

また、絶滅危惧 IA 類のカラフトグワイを約 30 年ぶりに再発見できました。本種は 2 湖沼（北海道及び岩手県）にのみ残っていることが確認されており、日本では絶滅寸前の状態にあるとされています。確認されたカラフトグワイは陸生形であり、その生育場所の周辺ではシカ類の足跡が確認され、攪乱されている様子が見られました。今後、陸生～水生で生活できる本種の特徴を考慮した適切な保全対策が求められます。さらに、従来は湖内に広く生育していたと思われるヒルムシロ科の浮葉植物（ホソバミズヒキモ、イトモ、オヒルムシロ等）があまり確認できませんでした。原因の一つとして、外来種のウチダザリガニによる食害も考えられるため、その対策が望まれます。

【調査者・調査協力者】持田 誠（浦幌町立博物館）、加藤ゆき恵（釧路市立博物館）、山崎真実（札幌市博物館活動センター）、加藤 将（新潟大学）、青木美鈴、金子誠也（WIJ）



カラフトグワイ。多年生の浮葉植物で矢尻形の浮葉が特徴です。
絶滅危惧 IA 類。加えて種の保存法で取扱が規制されている希少な水草です。



エゾベニヒツジグサの花。花期は 6 月から 9 月。
雌しべの柱頭と雌しべ周辺の雄しべが黒紫色になります。



ヒシ。
塘路湖では漁業権があり、資源として利用されています。



調査の様子。
ボートから採集器を投げて、湖底に生育している水生植物を採集しました。

速報：モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湖沼）水生植物調査

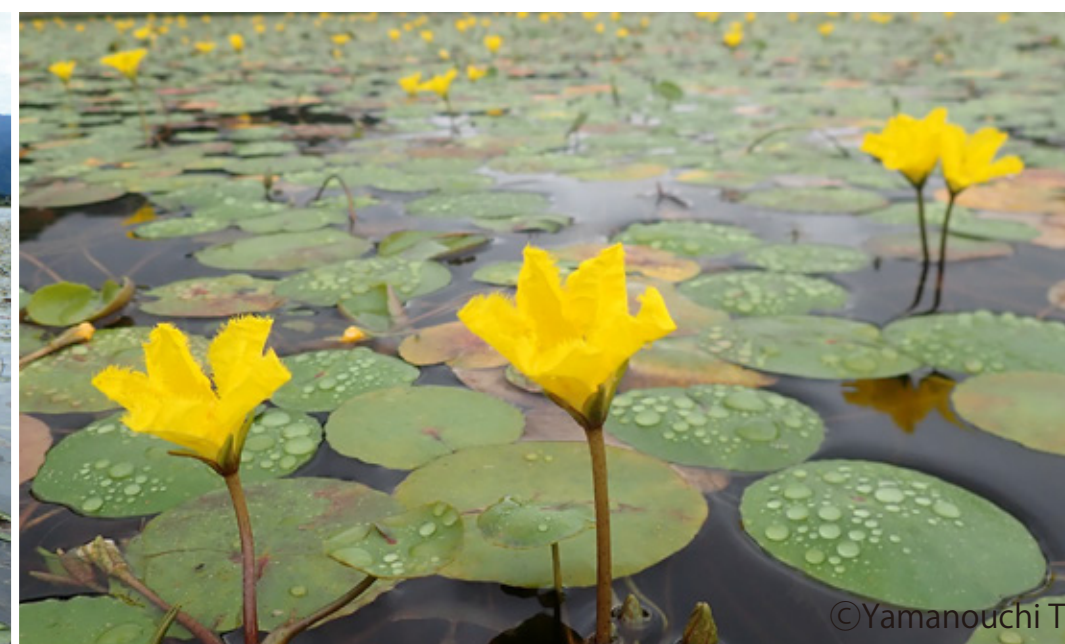
猪苗代湖サイト

—福島県会津若松市・郡山市・耶麻郡—

猪苗代湖は、福島県のほぼ中央部に位置する淡水湖です。磐梯朝日国立公園に含まれ、周囲 51 キロメートル、面積 104 平方キロメートル、最大深度 95 メートルの国内で 4 番目に大きい湖です。湖の北部には、国の天然記念物に指定されているミズスギゴケ群落やハクチョウ渡来地があります。猪苗代湖はかつて酸性の水質をもつ湖沼でしたが、1995 年頃から急速に中性化が進み、2005 年以降は pH7 程度を維持しています。中性化による水質や環境の変化やそれに伴う生物多様性への影響が注目されています。



アサザ群落。
湖の北岸や南端の湾部（鬼沼）で群落が確認できました。2019/09/22



アサザの花。
6月から9月に直径3～4cmほどの黄色い花が咲きます。



調査（踏査）風景。
水中の水草を採集するため、採集器を調査ポイントへ投げ込む様子。

2019 年度の調査結果概要

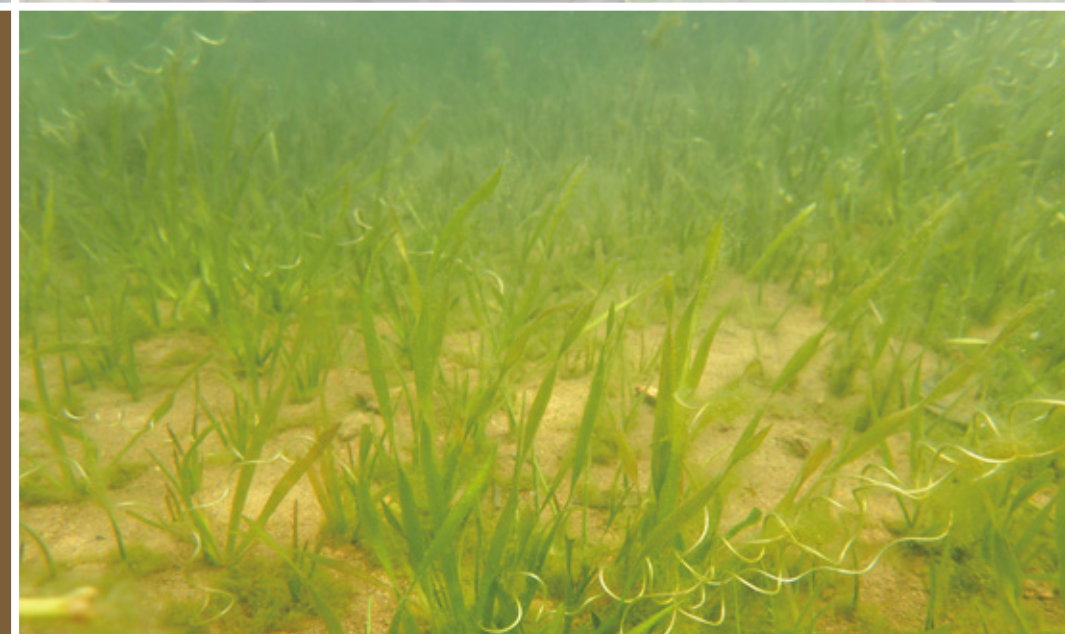
猪苗代湖サイトは、今年度より新たに追加されたモニタリングサイトです。今年度は、湖沼にどのような水生植物が生育しているかを把握するため、沿岸を歩く方法（踏査）とボートを利用した方法（ボート調査）の2つの方法を用いました。（2019年9月21～23日に実施）。

踏査では、アサザ、ヒシ、ヒルムシロ等が水面を覆う様子が見られました。また、水中にはコウホネやセキショウモ等の群落も確認できました。

ボート調査では、セキショウモ、クロモ、ヒメホタルイ等が複数の地点で採集されました。

今回の調査で見つかった希少な種としては、マルバオモダカ、イトイバラモ、トリゲモ、シャジクモ、アサザ、ミクリ等が挙げられます。一方で、侵略的外来種であるコカナダモやキショウブも確認されました。

【調査者・調査協力者】黒沢高秀、山ノ内崇志、齋藤佑樹、七海航平（福島大学）、加藤 将（新潟大学）、青木美鈴（日本国際湿地保全連合）、田畑早紀、鶴澤茉矢（生物多様性センター）



セキショウモ。水中に育つ多年草です。
らせん状のものは、水面で受粉を終えた雌花の茎です。



イヌタヌキモの花。
コウホネ群落の水面下では、たくさんのイヌタヌキモが見られました。



ヒロハノエビモ。
透き通った葉と白い葉脈のコントラストが美しい水草です。



水中から見上げたヒルムシロ。